

小学校 特別活動 部会

部会長 伊方小学校 校長 井上 憲治
実践者 市場小学校 教諭 大久保利詔

1 研究主題

学校内に話し合い活動を定着させ、高学年児童の学校運営への参画意識を高める児童会活動
～代表委員会での話し合い活動を基盤に据えて～

2 主題設定の理由

(1)

児童会活動は、その運営を主として高学年児童が行うが、それは高学年になると学校への所属感も高まり、集団的な活動の経験も増し、協力して集団生活の向上発展を図ろうとする態度も身についてくるからである。さらに、運営にかかわらない中・低学年の夢も大切に「全校的な視野」にたった活動も可能になってくるからでもある。

高学年児童がそうしたよさを十分に発揮し、全校児童が協力してよりよい学校生活を築いていくためには、一人一人の児童が「こんな学校にしたい」という夢を持ち、考えを出し合い、お互いのよさを生かし合って実践し、問題を解決していくことが必要である。

そのためには、学級における指導が児童会活動に大きく影響を与えることから、学級活動で自発的・自治的活動の体験を十分味わわせることも内容面で児童会活動との関連を図り、学校を運営している実感を味わわせることが必要になると考える。ところが学級活動での話し合い活動の経験が非常に少ないという事実がある。それは学級での話し合い活動を経験させていない担任教師の問題であり、その多くは話し合いをどのように進めていけばよいのか分からないという課題がネックにある。そのため本研究主題を設定し、オーソドックスな話し合いのスタイルを代表委員会を通して学校全体に広げ、代表委員会での話し合い活動を基盤として各学級に話し合い活動を定着させようと考えたのである。

3 主題の意味

(1) 学校内に話し合い活動を定着させるとは

代表委員会での話し合いのスタイルを本校の話し合い活動の基本とし、それを各代表委員や参加している担任がクラスに持ち帰り、クラスでの話し合いを実践し、それを毎月の代表委員会ごとにくり返し実践することである。

(2) 高学年児童の学校運営への参画意識を高める児童会活動とは

集団の一員としてよりよい学校生活づくりを行うことであり、学校行事の計画の一部を担当したり、児童会の組織を活用して学校行事の運営に協力したりすることである。

4 研究の目標

各学級に話し合い活動を定着させるには、話し合いのオーソドックスなスタイルを毎月の代表委員会の話し合いを通して実際に見せる必要があり、またそれを定着させるには、各クラスで定期的に必ず実践する必要もある。そのため児童会活動と代表委員会、生徒指導との相互関連及び児童会活動と代表委員会活動の指導の在り方を究明する。

5 研究仮説

代表委員会での話し合いの進め方を代表委員会の議長団に指導し、基本的な話し合いのスタイルとして毎月の代表委員会で定期的実践していけば、輪番で参加する各クラスの代表委員及び、学年代表として参加する担任教師に、そのオーソドックスな話し合いのスタイルを伝達できるであろう。また、毎月の児童会目標を達成するための具体的な取り組み方法を各クラスで定期的に話し合うならば、話し合い活動が少なくとも月1回は行われ、児童は話し合い活動の経験を積み重ねることができよう。そして、その話し合いの経験が、学級内の諸問題を議題として取り上げる自発的な話し合い活動へと発展するであろう。

6 研究の計画
(1) 特別活動の全体計画

特別活動の全体計画 (23年度用)

市場小特別活動部

<p>児童や地域の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく生き生きとした子どもが多い ・学力の差はあるが、積極的に学習する子どもが多い ・地域の教育力がやや弱い 	<p>学校の教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの夢を育て、夢を実現する力を培う <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを確かに表現する子ども ・友達と認め合いなかよくする子ども ・根気強く最後までやりとげる子ども 	<p>保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで学ぶとする子ども ・生命を尊び、思いやりのある優しい子ども ・和やかに最後までがんばる子ども
---	---	---

<p>特別活動の目標</p> <p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、主体的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p>

<p>本校特別活動の目標と目標達成に向けての本年度の全校での取り組み</p> <p>望ましい集団活動を通して、学級・学年・全校への所属感や児童相互の連帯感を深め、共によりよい生活を築こうとする自主的、主体的な態度を育てるとともに、集団の中で自己を生かす能力を養う。</p> <p>○朝の会、帰りの会を学級目標達成に向けた活動とリンクさせるとともに話し合い活動を充実させる。</p> <p>○異学年との交流の機会を多くもてるような児童集会を工夫するとともに、クラブ活動での異年齢活動を工夫する。</p> <p>○学級における学級活動コーナー、児童会活動掲示板、委員会、クラブ活動コーナー等の特別活動コーナーの充実を図る。</p>
--

	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
目 的	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、主体的な態度や健全な生活態度を育てる。	児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、主体的な態度を育てる。	クラブ活動を通して望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、主体的な態度を育てる。	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、主体的な態度を育てる。
活 容	<p>第1学年 年2回(1)・年2回(2) 20 曜 / 14 曜</p> <p>学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>第2学年 年2回(1)・年2回(2) 21 曜 / 14 曜</p> <p>学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>第3学年 年2回(1)・年2回(2) 21 曜 / 14 曜</p> <p>学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>第4学年 年2回(1)・年2回(2) 21 曜 / 14 曜</p> <p>学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>第5学年 年2回(1)・年2回(2) 25 曜 / 10 曜</p> <p>学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>第6学年 年2回(1)・年2回(2) 25 曜 / 10 曜</p> <p>学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。</p>	<p>代表委員会</p> <p>第3,4,5,6学年で構成 毎月第2火曜日6校時(60分)</p> <p>・児童運営委員会が進行 ・学級代表2名、各委員長 ・低学年より教師1名</p> <p>※ 選挙活動は1学期と2学期で行なう (学年13・14)</p> <p>委員会活動</p> <p>第5・6学年で構成 毎月第1火曜日6校時(60分)</p> <p>※設置する委員会(10)</p> <p>・児童運営・保健・給食・放送 ・図書・体育・飼育栽培・情報 ・環境、ボランティア・音楽</p> <p>※選挙活動は1学期と2学期で行なう</p> <p>集会活動</p> <p>全校朝会毎月1回 (総会式、終会式のある月は同一日)</p> <p>・全校集会(異年齢交流) ・ワクワク集会(歓迎) ・七夕集会(音楽) ・なかよし集会(人権) ・思い出のメモリー集会(送会)</p>	<p>第4,5,6学年で構成 毎月第3火曜日6校時(60分)</p> <p>○計画・運営に関する話し合い</p> <p>○共通の興味・関心を追求する活動</p> <p>○成果を発表する活動</p> <p>※設置するクラブ(11)</p> <p>・外スポーツ ・バドミントン ・バスケツト・水球 ・卓球 ・手芸 ・クッキング ・パソコン ・科学 ・囲碁、将棋、オセロ ・読書、イラスト ・五色百人一首、カルタ、カード</p> <p>※GTの活用もあり</p>	<p>第4,5,6学年で構成</p> <p>儀式的行事</p> <p>・離任式・授賞式・卒業式 ・修了式・入学式・卒業式</p> <p>※修了式と入学式は別々の時期に行なう</p> <p>文化的行事</p> <p>・音楽鑑賞会 ・音楽発表会 (七夕集会、メモリー集会)</p> <p>健康安全・体育的行事</p> <p>・身体発育測定 ・身体健康診断 ・交通安全教室 ・運動会 ・遊園訓練</p> <p>遠足・集団宿泊的行事</p> <p>・歓迎遠足 ・集団宿泊訓練(4,5年) ・修学旅行 ・解遊遠足</p> <p>勤労生産・奉仕的行事</p> <p>・大掃除 ・入学式準備 ・運動会準備 ・卒業式準備</p>
観 点	話し合いや係の仕事を進んで行い、学級・学校生活の向上を目指し、自己の役割を考えながらその解決に努めているか。	代表委員や委員会の仕事を責任をもって行ったり、学校生活の向上や友達のことを考えて、自己の責任を果たしているか。	自己の興味・関心を追究し、友達と協力し、異学年の友達のことを考えながら活動しているか。	全校や学年の一員として、自己をもち、活動の中で、自己の役割を考え行動しているか。
方 法	学級活動ノート、観察(発表、発言、反応 etc)	委員会ノート、観察	クラブ活動ノート、観察	観察、作文など
本 年 度 の 重 点 的 指 導 方 針	<p>○集団の一員としての自覚を促し自発的・自目的活動が低学年から段階的に行われるようにする。</p> <p>○一人一人の児童が所属感や連帯感、成就感や充実感をもてるように活動を工夫するとともに、支持的風土の醸成に努める。特に、自他の「よさ」を見つけ、認める活動を取り入れる。</p> <p>○高学年においては、学校生活全体に目を向け、高学年としての自覚と責任をもち、よりよい校風作りに努める活動展開を行う。</p> <p>○学級会での役割の呼称は、総長、副総長、異年齢書記、ノート書記、異年齢活動では司会とする。</p> <p>○学級目標については、目標を4月中に決定し、発表から6月上旬までに完成させる。</p>	<p>○学級での話し合い活動の割合を50%以上とする。</p> <p>○代表委員会での話し合い活動を充実させる。</p> <p>○代表委員会に見学票を渡し、2年生からの見学予約を受け付ける。(他の学年も可)</p> <p>○「思い出のメモリー集会」の企画は、各目的カードで行い、代表委員児童参加者がより多く参加できるように配慮する。</p> <p>○異学年との交流を多くもてるような児童集会を工夫するとともに、兄弟学年との活動を工夫する(14・6, 24・4, 34・5など)</p> <p>○学校行事への協力を行う</p> <p>歓迎遠足、運動会(司会進行)、修学旅行</p>	<p>○活動内での異年齢構成を工夫する。</p> <p>○個人の活動だけで終わらないように留意する。</p> <p>○活動終了時には、必ず4,5,6年生が向かい合い振り返りを行う。(取ってもらったことへの感謝等も忘れずに!)</p> <p>○クラブ活動ポストを活用し、活動を活性化させる。</p> <p>※全校朝会や昼休みを利用して発表の機会を作る。</p> <p>※クラブ紹介の際には成果の発表を要する。</p>	<p>○歓迎遠足、運動会、集団宿泊(4,5年)修学旅行へは、児童会に積極的に協力させる。</p> <p>○運動会は児童会の司会進行で行うことを重視し計画する。</p> <p>○歓迎遠足は歓迎委員会とコラボレーションする。</p> <p>○各々の準備は高学年児童を中心に、行方を学校への所属感を高める。</p> <p>○七夕集会、思い出のメモリー集会は文化的行事として各1時間ずつ時間を確保する。</p>

特別活動の内容相互の関連	<p>・四つの内容で身につけた態度が相互に活かされ、学級や学校の生活づくりに参画する態度や自目的能力を一番高めるようにする。</p> <p>・下学年への思いやりをリーダーシップを育てたり、上学年へのあこがれを育んだり異年齢集団による効果的活動を工夫する。</p>			
各教科及び評価諸活動との関連	道徳との関連	総合的な学習との関連	生徒指導との関連	
各教科等と特別活動は互いに支え合い、補い合う関係にある。特別活動の具体的な活動場面で行なわれる道徳的実践が、一層重みづけられるようにする。	「自己の生き方についての考えを深め」をキーワードとし、道徳的な心情や判断力が、特別活動の具体的な活動場面で行なわれる道徳的実践が一層重みづけられるようにする。	特別活動の特質と総合的な学習の目標の相違及び自主的、主体的態度の共通点に留意して関連学習を計画すること。「保育園との交流活動」「保育園との交流活動」等	「個性の伸長」「社会的な資質や育成」の面からも関連は深い。またキャリア教育、規範意識の形成の面での連携も大切にする。	

地域社会・家庭との連携	<p>・保育園との交流活動・交流委員会・英彦山宿泊学習・ベクトルキャップ収集活動</p> <p>・米作り体験活動・上野焼き体験活動・英彦山川原祭・小中連携会</p>
--------------------	--

(2) 児童会目標と月目標

児童会目標

礼儀 = 誰にでも心をこめてあいさつをし、その場に応じた言葉遣いでみんなが気持ちよく思えるようにしよう。

規律 = 学校のきまりを守って価値ある行動をとり、楽しい学校生活を送ろう。

勤儉 = 時間やものを大切にしながら、努力をおしまず、よりよい市場小をつくっていこう。

月目標（生活目標とリンクしている）

4月	一年生を楽しく迎えよう	10月	本を多く読もう
5月	掃除を一生懸命にしよう	11月	県展に向けてがんばろう
6.7月	雨の日の過ごし方を考えよう	12月	人権の大切さを知ろう
(8月)	平和の大切さ尊さを知ろう	1月	給食の大切さを知ろう
9月	運動会に向けてがんばろう	2.3月	六年生との思い出を作ろう

7 活動の実際

(1) 議題 「10月のめあてのふりかえりと11月のめあての具体的な達成方法」の報告をしよう「なかよし集会の提案」をしよう

(2) 本時の活動内容とその意義

本議題のうち10月めあての振り返りと11月のめあての具体的な達成方法の報告は、年度当初に提案した、市場小学校が楽しい学校になるためのめあてを各学級がどのように取り組んでいくのかという具体的な達成方法を報告する代表委員会定例の活動である。通常は昼休みに行われるミニ代表委員会で全て行うが、本時はその一部（3年生と6年生）の様子を公開したものである。

「なかよし集会」の原案提案は「全校児童が協力して、よりよく、より楽しい学校生活を築く児童会活動」を具現化するために、人権週間にあたる12月の第1週に人権・同和担当とタイアップして人権とは何かを学んだり、全校児童がもっと仲良くなるゲームをしたりするロングの児童集会活動を提案したものである。ロングの集会は通常、原案を提案し学級に持ち帰ってから修正決定のミニ代表委員会を開いて決定する。

委員会のイベント活動も原案を提案するが、これはその場で質問、意見を出し合って決定する。また、各委員会からの連絡事項は、たくさんあるためプリントに印刷したものを配布し、その内容を各委員長が説明する方法で行っている。

『なかよし集会』へ児童会が積極的に関わる一連の活動や各委員会イベント活動は、友達のように気付いたり、学校を引っ張っていく積極的な6年生を育てたりするとともに、全校児童が市場小学校の一員としての所属感や連帯感を感じ、よりよい学校生活をめざそうとする高学年児童の意欲をも育むことができる有意義な活動と考えている。

(3) 議題選定までの経過

議題が決定するまでの経過（議題設定の理由を含む）

児童会活動は、学校の全校児童をもって組織するが、本校ではその運営を主として高学年児童が行っている。それは、高学年になると学校への所属感も高まり、集団的な活動の経験も増し、他のグループと協力して集団生活の向上発展を図ろうとする態度も身につくからである。さらに、運営にかかわらない中・低学年の夢も大切に「全校的な視野」にたった活動も可能になってくると考えるからでもある。

高学年児童がそうしたよさを十分に発揮し、全校児童が協力してよりよい学校生活を築いていくためには、一人一人の児童が「こんな学校にしたい」という夢を持ち、考えを出し合い、お互いのよさを生かし合って実践し、問題を解決していくことが必要である。そのためには、学級における指導が児童会活動に大きく影響を与えることから、学級活動で自発的・自治的活動の体験を十分味わわせるとともに内容面で児童会活動との関連を図り、学校を運営している実感を味わわせることが必要であると考えた。

また、課題を解決していく際には、高学年児童だけではなく、全校の児童が協力し合うことが大切であり、年齢の異なる児童同士がお互いのよさを生かしあえるように配慮しなければならない。さらに、児童にとってより新鮮でダイナミックな児童会活動にしていくために、地域の保育園と連携したり、地域の行事に参画していったりするような活動内容・範囲の拡大が望まれる。

また、総合的な学習や他教科・領域との関連を図っていくことによっても、従来の児童会活動がよりダイナミックな児童会活動へと変容し、子どもたちの夢も大きくふくらんでいくことと考える。

このような思い「全校児童が協力して、より楽しい学校生活を築く児童会活動」を具現化するために、本校では4つのロングの児童集会【～一年生を楽しく迎える～わくわく迎集会】【～僕らの願いよ天まで届け～七夕集会】【～人権の大切さを知ろう～なかよし集会】【～六年生の卒業と中学校への入学を祝う～思い出のメモリー集会】とショートの子集を5回行っている。

また、学校の生活づくりに参画する態度や自治的能力を一層高めるようにする目的で【児童会による仕事分担と児童会による司会進行】で運動会を運営している。

代表委員会活動では児童会が立てた毎月の月目標を達成する具体的な方法を各クラスで話し合い、その報告と振り返りを毎月行っている。

本時の代表委員会では、『なかよし集会』の原案を提案することを中心とし、代表委員からの質問を中心に行い、次回のミニ代表委員会での修正・決定へとつなぐ。

『なかよし集会』を児童会が企画、運営する一連の活動は、異学年との絆を深めたり、市場小学校の一員としての所属感や連帯感を感じることができるとともに、仲間を大切にしながらよりよい学校生活をめざそうとする意欲をも育むことができる有意義な活動と考える。

特別活動と児童の実態

本校は学級数16学級（含：支援学級1）児童数381名の中規模校である。特別活動にかかわる実態としては、

クラブ活動：4年生～6年生で構成されクラブ数は11、毎月第3、4火曜日に実施（60分）異学年交流を意識する意味でも、活動終了時に3つの学年が向かい合って振り返りを行うようにしている。

委員会活動：5、6年生で構成、委員会数10）毎月第1週火曜日に実施。各委員会が独自に企画運営するイベントが多数ある。代表委員会 活動は、毎月第2火曜日6校時に実施、月目標の具体的な達成方法の報告と振り返りは、昼休みのミニ代表委員会で対応している。

児童の児童会活動への参画の様子は非常に積極的で、特に委員会活動では、各委員会独自のイベント活動を積極的に企画運営し、楽しい市場小学校を目指して自主的に生き生きと活動する姿が見られる。このように児童の手で運営される積極的なイベント活動や集会活動の経験は、下学年児童への思いやりを育み、6年生への尊敬やあこがれを生み出すなど、児童の縦のつながりと絆を深くしている。さらに、各委員会へは、一昨年の委員会から蓄積している活動実績ポートフォリオを利用して、さらに積極的な委員会活動の展開を促しているところでもある。

代表委員会活動では、各学年の代表委員（3年～6年）を完全輪番制にしているため、話し合いの形式や形態、進め方が各学級の学級会へのよいお手本となっている。話し合い中は、児童運営委員が、3、4年生への原案の見方などアシストができる態勢をひいており、さらに机脚配置の工夫により上学年が下学年のお世話ができるようにもしている。また、次の代表委員や1、2年生の見学参加もできるようにしている。

今回、話し合われる3つの2つの議題のうち、『なかよし集会』は水曜日の修正・決定に向けての原案の提案と質問、イベント関係の提案は質問、意見を出してその場で決定する形をとる。

本時の代表委員会では、それぞれの活動がどのような意義を持っているのかを押さえながら提案を進め、各学級にその活動内容と意義が正しく伝わる話し合い活動を展開してほしいと願っている。

指導にあたって

ア 事前

5月に提案した、「市場小学校が楽しい学校になるための毎月のめあて」をもとに11月のめあて達成へ向けて、学級としての具体的な取り組み方を報告するが、各クラスの取り組みがより確実に達成できるように、児童一人一人に具体的な方法を自己決定するように前回の代表委員会でも助言している。

「なかよし集会」ではの提案については、5、6年児童が高学年としての責任感や学校への所属感をより感じさせるために、各委員会にポスター、めあて、横断幕作りなどの役割分担を行った。

「委員会のイベント」の提案は、それぞれの委員会が事前に話し合い、担当教師の承認を受けて原案を作成した。

各委員会からのお知らせは、内容が多いため、あらかじめプリントにまとめておいた。

イ 本時

本時の代表委員会参加への課題意識が高まるように、各学級代表の児童は事前に10月のめあてのふりかえりと、11月のめあての具体的な達成方法を決定して話し合いに参加している。そのため、各クラスのふりかえりと、具体的な達成方法を代表委員全員にしっかりと伝えることができるよう援助・支援する。

また、児童が「なかよし集会」「保健委員会イベント」「放送委員会イベント」の活動意義と提案内容を各学級へしっかりと伝えることができるように、原案を読むだけでなく補足説明をしながら提案するように助言する。

ウ 事後

「なかよし集会」「保健委員会イベント」「放送委員会イベント」の各提案は11月11日(水) 昼休みのミニ代表委員会で修正・決定とポスター立候補の受付をする。立候補で作成されたポスターは、運営委員会児童が校内に掲示する。

「なかよし集会」終了後には、各学級ごとにふりかえりを行いアンケートに記入する。代表委員会と校内放送でそのふりかえりの結果を報告し、次の集会へ活かしていくとともに高学年児童には運営に参画し、成功させたぞという成就感と自己有用感をより多く味わわせ、次の活動へとつないでいきたい。

(4) 目標

代表委員会への参加と「なかよし集会」へ児童会が積極的に関わる為の提案を通して、市場小学校への所属感や連帯感を感じるとともに、よりよい学校生活をめざそうとする。

(関心・意欲・態度)

代表委員会活動がみんなで楽しい市場小学校をつくっていくことへつながるとわかり、「なかよし集会」の提案を通して、活動の価値や意義を考えることができる。

(思考・判断)

代表委員として、原案に込められた思いや願いを、学級へ正しく伝えることができるとともに、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができる。

(技能・表現)

議題を決定していくための話合いの手順が分かるとともに、「なかよし集会」へ積極的に関わる活動が学校生活の充実と向上へつながるとともに、児童会が楽しい市場小学校を目指していることを理解できる。

(知識・理解)

11月のめあてを達成するための各クラスの具体的な達成方法を考えて代表委員会へ臨むことにより、代表委員会へ課題意識をもって参加できるとともに、代表委員会ノートを利用して、10月のめあてを各クラスの具体的な活動に添ってふりかえる評価活動を行い報告し合うことができる。

(伝え合う力にかかわること)

(5) 指導計画

事前の活動(児童運営委員会)

児童の活動	教師の指導と援助	日時
児童計画委員会として『なかよし集会』では何ができるか話合い、原案を作成した。	・「なかよし集会」を各委員会が協力して運営できるように、児童計画委員会で提案理由やめあて、内容を考え原案作成を行った。	10月12日 昼休み～
次回代表委員会の議題内容を検討し決定した。 議長グループでリハーサルと黒板作りを行った。	・相手意識にたった読みやすい原案作りを助言した。	11月1日 昼休み～
提案者を交えて議長団と最終リハーサルを行う。	・各委員会の連絡と提案原案を集約。 提案内容が多かったため、すでに原案が制作されている児童計画委員、保健委員会イベント、放送委員会イベントの3つの提案のうち、保健委員会についてはミニ代表委員会で提案してもらうことに決定した。	11月4日 6校時 (定例の委員会活動日)
代表委員会を開き、めあての振り返りと具体的達成方法の報告、各委員会の提案、連絡を行う。	・提案者には原案の棒読みではなく、伝える相手を意識して、内容を補足しながら提案するように助言する。 ・話合いの流れを予想して、対処の仕方を十分に考えておくように助言する。	11月7日 昼休み
	・活動の価値や意義について十分に伝えるようあらかじめ助言しておく。	本時

本 時
ア 本時のねらい

代表委員会活動がみんなで楽しい市場小学校をつくっていくことへつながるとわかり、提案された活動の価値や意義を考えることができる。
(思考・判断)

代表委員として、決定した内容を学級へ正しく伝えることができるとともに、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができる。
(技能・表現)

今日の話合いのめあて
「話：クラスの人に正しく伝えるために聞きやすい声で発表しよう」
「聞：聞きもらしがないように話している人の方を向いてしっかり反応しよう」がわかり、今日のめあてに添ってふりかえる評価活動を行うことができる。

(伝え合う力にかかわること)

イ 指導上の留意事項

事前に11月のめあて達成へ向けて、学級としての具体的な活動内容を決定してから代表委員会へ臨むよう、また、10月のふりかえりを理由をつけながら代表委員が発表できるように、各担任へお願いしている。

児童が自主的な活動内容を逸脱しそうな場合は、適宜、適切な指導を行う。

上記のように、ねらいにかかわる視点をもちながら活動を見守り、最後「先生の話」の中で今後の活動がより意欲的になるように、今日の代表委員の頑張りやよさに着目した評価を行う。

事後においては、振り返りを行い、成果と仮題を報告し合う活動を通してお互いに認め合えるように、活動支援を行う。

協力と頑張りぬいたことを大いに称賛し、確かな実感と満足感を感じさせながら、次の集会につながるように常にポジティブな評価活動を行いたい。

ウ 評価

1 個人の変容に関する評価

代表委員会活動がみんなで楽しい市場小学校をつくっていくことへつながるとわかり、提案された活動の価値や意義を考えたことができたか。
(思考・判断)

学級へ正しく伝えるために、話合いの適切な場面で質問したり、意見を述べたり、反応したりして、自分の役割に責任をもって協力しながら会を進めることができたか。
(技能・表現)

今日の話合いのめあて「話：クラスの人に正しく伝えるために聞きやすい声で発表しよう」「聞：聞きもらしがないように話している人の方を向いてしっかり反応しよう」がわかり、今日のめあてに添ってふりかえる評価活動を行うことができたか。

(伝え合う力にかかわること)

2 集団の変容に関する評価

話し合いの適切な場面で、異学年のお世話をしたり、議長の発言に反応したりして、協力しながら進め、集団決定することができたか。
(技能・表現)

事後の活動予定

児童の活動	教師の指導と援助	日時
<ul style="list-style-type: none"> 低学年に原案の説明に行く 原案の修正決定を行い、ポスターの立候補を受け付ける。 ポスターを提出してもらい、校内掲示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な所だけを分かりやすく説明する。 立候補数にこだわらずに描いてもらう。 	11月9日 11月9日 ミニ代表委員会 11月25日
<ul style="list-style-type: none"> 「なかよし集会」を行う。 児童計画委員は集会の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果と仮題を報告し、お互いの活動を認め合えるように、活動支援を行う。 協力と頑張りぬいたことを大いに称賛し、確かな実感と満足感を感じさせながら、次の集会につなぐ。 見本のポスターを貼り替える 	12月2日
<ul style="list-style-type: none"> ポスターの回収を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを集計し、次回の集会に活かす。 	12月5日
<ul style="list-style-type: none"> 「なかよし集会」を振り返ってのアンケートを行う 12月の代表委員会でアンケート結果を報告する 		12月 日

本時活動展開計画【児童運営委員会が本時代表委員会の事前活動を行う際に指導する内容】

第9回 代表委員会の計画 平成23年11月8日(火) 第6校時	
議 題	「10月のめあてのふりかえりと 11月のめあての具体的な取り組みの報告をしよう」 「なかよし集会」の計画(原案)提案 「保健委員会イベント」の提案(ミニで提案予定) 「放送委員会イベント」の提案 をしよう
提 案 者	児童計画委員会・保健委員会・放送委員会
提案理由	12月の第一週は、人権週間なので、人権とは何かを知り、みんなで考える機会を持ちたいから。 義務や権利の大切さを学習し、人権や平和と向き合い、意識を高めたいから。 レクレーションを通して、全校のみんなとふれあう楽しさを感じ、絆を深めたいから。 (キーワードは ~たいから)
集会のめあて	前半 修学旅行の報告を通して、命の尊さや平和というあたたかみを深く考えよう。 先生方のお話を通して、身の回りにある人権についてより深く考えよう。 後半 レクレーションでは、全校で盛り上げ、一人一人が楽しみ絆を深めよう。
話し合いのめあて	話：クラスの人に正しく伝えるために聞きやすい声で発表しよう。 聞：聞きもらしがないように話している人の方を向いてしっかり反応しよう。 (キーワードは ~よう)
役 割	議 長 (山鹿 美帆) 副 議 長 (久保 光平) ノ ー ト 書 記 (藤村 侑愛) 黒板書記 (平川 結実、藤村 侑愛、吉田 有沙) 提 案 者 (宮川 亜弓、塚本 唯聖)
主な活動内容	教師の指導・援助と本時の留意点
1 はじめの言葉	・議長団に大きな声ではっきり短い時間で行えるように助言する。
2 めあての確認	・【理由をつけ、みんなに聞こえるように発表する】 視点を代表委員に与えるように議長へ助言する
3 10月のめあてのふりかえり 11月のめあての報告	・【めあての紙がみんなに見えるように、聞き取れるように発表する】 視点を代表委員に与えるように議長へ助言する
4 「なかよし集会」 の提案 「保健委員会イベント」 の提案(ミニで) 「放送委員会イベント」 の提案(6校時)	・まず訂正をしてから、提案を始めるように助言する。 ・提案者へは原案を棒読みするのではなく、活動の意義など補足説明を行いながら提案するように助言する。 ・質問に答えられないときは、教師に聞きに来るように指導する。
5 各学級から	・お願いの内容の解決方法で、議長判断がつかない時は、教師に相談するように指導する。
6 各委員会から	・あらかじめ提出されていない委員会の発表がある時は、最後にその委員会に発表させるようにする手順を助言する。
7 ノートに書く時間	・ノートへ書く内容を伝えるように議長へ助言する。
8 代表委員会のまとめ	・ノート書記に本時の話し合いを簡潔にまとめて、わかりやすくみんなに伝えるように助言する。
9 めあてのふりかえり	・めあてにそった評価活動をするように助言する。
10 先生方から	・意見発表にがんばった児童や発表の仕方に気をつけた児童に対して賞賛を行い、以後の活動への意欲を喚起したい。
11 今日の活動評価	・代表委員の頑張りに着目した活動評価をするように助言する。
12 終わりの言葉	
児童運営委員は代表委員会終了後に、 本日の代表委員会をふりかえる活動を行う。	

本計画は11月6日現在予想される活動である。

代表委員会の机脚配置の工夫と名前札

机の配置にも工夫が必要になる。写真のように各クラスの代表委員の座席を6年生の横に3年生、その横に5年、4年のように配置し、中学年のアシストを行う。

また、児童運営委員会（計画委員）児童を中学年児童の横に座らせてアシストを行うことにより、より一層活動への責任感と思いやりが増す。

代表委員の名前札には、必ず名前を書き込めるように工夫することが大切で、そのことが代表委員としての自覚を促すことにつながる。また、組織表にはクラブ長や委員長名を記す。代表委員会では、指名をする際に「年組さん」のように必ず名前呼び、代表委員としての自覚と所属感を高めるようにする。



3年生にアシスト活動を行う
児童運営委員



代表委員会前に書き込む

クラブ活動組織表		委員会活動組織表	
クラブ名	部長名	委員会名	委員長名
スホーン	飯森 侑真	児童運営	井 孝哉
バスケットボール	西山 修也	情報	毛利 大貴
バドミントン	水木 悠斗	体育	飯森 侑真
卓球	中生加 翔平	音楽	瀬口 欽加

クラブ、委員会の組織表

低学年の代表委員会への見学参加と 低学年への代表委員会の内容の伝達

低学年児童が児童会活動に関心をもつように、楽しい児童集会の原案を簡易な言葉に代えて説明に行ったり、委員会からのお願いやイベント情報を代表委員会の翌日、各教室に伝達に行ったりする。

また、代表委員会への見学参加希望を募り、見学参加してもらう。もちろん中学年の次の代表委員さんの見学参加も随時行う。このような取り組みを続けることで、児童会への関心が高まるとともに、学級での話し合い活動も活性化する。



低学年教室で代表委員会の内容をお知らせする。



児童会室後方の見学参加者と
説明をする児童運営委員

各クラスの取り組みが見える児童会掲示板の工夫

低中高、それぞれのクラスが、今月はどんな取り組みをしているのかがひと目で分かるような児童会掲示板の工夫を行う。それが、楽しい学校づくりを目指す児童会活動への関心を高め、連帯感と意欲を生み出す事につながる。

児童会掲示板は、常に新しい情報を全校児童に届ける動いている掲示板でなければならない。

児童会だより、各委員会のイベント情報、集会原案はもちろん、本校では環境ボランティア委員会のペットボトルキャップの現在数も分かるようになっている。



児童が必ず通る場所に設置する

各学校の取り組みに違いはあるだろうが、毎月の月目標を各クラスが具体的にどのような方法で達成しようとしているのかがひと目で分かるように掲示する。

それは、児童一人一人が目標を達成するために「こうする」という自己決定を促す事にもつながる。



市販のファイルを利用する

各代表委員が必ず発表できる場の設定

全ての代表委員が、一度は発表できる場を設定するために、今月の児童会目標を達成するため各クラスで決定した具体的な取り組み方法を、全員の前で報告する。

また、もう一人の代表委員は先月の取り組みの振り返りの報告をする。

このような工夫により各代表委員は自己効力感を感じるとともに、この代表委員会に必要な存在なんだという自己有用感を感じることもつながる。これらの経験がクラスでの話し合い活動への積極的発言につながる。

発表している下学年をしっかりと見て聞いて大切にする。

発表する人とその内容をしっかりと聞き取ることは、話合いの基本中の基本である。

このように、代表委員会の中でも支持的な風土を醸成することが大切で、これらの様子をお手本に、各クラスでの話し合いが展開される。

また、高学年児童へのあこがれも生み出される。



具体的な達成方法を報告する3年生児童

8 研究のまとめ

代表委員会での話し合いの進め方を代表委員会の議長団に指導し、基本的な話し合いのスタイルとして毎月の代表委員会で定期的実践し、輪番で参加する各クラスの代表委員及び、学年代表として参加する担任教師に、そのオーソドックスな話し合いのスタイルを伝達できた。また、毎月の児童会目標を達成するための具体的な取り組み方法を各クラスで定期的話し合い、話し合い活動を少なくとも月1回行うことができた。また、児童は話し合い活動の経験を積み重ねることができた。

9 成果と今後の課題

代表委員会での話し合いの方法を議長団に適切に指導し、話し合い活動の基本的なスタイルとして各代表委員に示すことで、各クラスに話し合い活動の方法を伝達することができた。また、各クラスの代表委員を輪番で出席させることにより、年間を通してほぼ全ての児童に代表委員会を経験させることができた。

低学年児童には代表委員会への見学参加を募ったことにより、話し合い活動への意欲を喚起することができたとともに、次年度代表委員として出席する2年生にはそのレディネスを形成することができた。

高学年児童には代表委員会での机脚配置の工夫により下学年児童への思いやりの心を育むことができた。特に6年生児童は、各委員会でたくさんのイベントを計画実践し、全校児童に喜んで貰えたり、教師からの積極的な言葉による評価をして貰えたりしたことにより、大きな達成感を味わうことができた。また、活動途中で感じる事ができた自己有用感や自己効力感、個々の自尊感情を高めることにもつながり、以後の活動での積極的行動や責任感をも生み出すことにもつながった。

話し合いの経験をいかし、学級内の諸問題を議題として取り上げる自発的な話し合い活動へと発展させていけるかどうか今後の課題である。

月目標の具体的な達成方法を話し合う活動が、話し合い活動(2)の題材として捉え、個への自己決定にまで結びつけていく話し合い活動をさらに深化させていくことも次年度の課題である。